http://decfamily.p1.bindsite.jp/2018/

We 35R

No.398　18/06/27

本番を前に

いよいよ本番である。泣いても笑っても今日が最後、本番の「９分」がすべてである。その９分に、今までの思いの全てを込めて、35Rの歌をうたいあげよう。

＊

歌に関してはもう合唱委員の人たちに任せるとして、担任的に唯一アドバイスできるとすれば、あの会場での「着席位置」である。

審査員は真剣に全クラスの演奏を聴いている。だから、そのすぐ側でノイズが発生していれば気になるし、そのノイズの発生源をすぐに特定するに違いない。合唱祭は、歌そのものを競うわけだが、当然のことながら学校行事であり、行事としての観点から（生徒の成長という観点から）も採点されることになる。それは、歌そのものとは別に、演奏している時にクラスの一体感が感じられるだろうかとか、その一体感の背景に、練習の積み重ねが感じられるだろうかとか、そういったことだ。そして、その要素の一つに、当日の合唱祭そのものに対する取り組み、つまり鑑賞態度も、採点の大切な要素となっているということだ。

だから、演奏中に余計なおしゃべりやスマホ操作をしたりしないのは当然のこととして、演奏の合間にも、合唱とは関わりのない下らない発言などをしないように注意し合いたいものだ。誰だって「つい…」はあるのだから、大きな声で関係のないことを喋ってしまったりすることだってあるだろう。後輩たちの演奏に、不用意な感想を述べてしまう場合もあるかもしれない。しかし、そういう時に側にいる人が注意をすれば、その声も審査員の耳には届くはずだから、大きな減点になることはなく、むしろ、そういう態度が評価される可能性もあるだろう。だから、互いに配慮しあって、クラス全体で鑑賞態度を向上させるように気を配りたいものだ。

＊

舞台に上がればドキドキするだろう。それは、それだけ自分が合唱に真剣に取り組んできた証拠である。いい加減な人間はドキドキなどしないのだ。今、文系必選古文で大鏡「道長と詮子」をやっているが、関白になりたい道長は、姉であり一条天皇の母でもある詮子に連れられて、一条天皇のいる清涼殿の上の御局にやってくる。弟（道長）思いの詮子は、自ら天皇のベッドルームである夜の御殿に入って、道長に関白の宣旨を下すよう一条天皇に直談判するのだが、その成否を待つ道長の心情が「御胸つぶれさせ給ひける」と出てくる。関白職を熱望するがゆえに、「胸つぶる」なのである。サッカー日本代表を心から応援している人は、一試合一試合に「胸つぶる」思いをしているに違いない。だから、負ければひどく落胆することだろう。しかし、勝った時のあふれる喜びは、心から応援していない人には、決して体験することのできないほど大きなものに違いない。

真剣だからこそ、ドキドキするのだし、悔しいのだし、喜びもあるのである。そのドキドキも、悔しさも、喜びも、全てが「今日」にある。だから、そのドキドキを楽しみながら、つまりは、自分は真剣なのだと感じながら、今までの成果を発揮しようではないか。だって、アンコールの時には、もはやドキドキはしないはずなのだから。